

[2026 年 2 月 13 日]

2025 年 第 4 回 東京支部理事会開催

12月3日（水）15：00 より、Web 会議と集合会議（日立製作所 秋葉原ダイビル）のハイブリッド形式にて、2025 年 第 4 回東京支部理事会が開催され、21 名が参加しました。

（議事録については本記事のリンク先参照）。

平本 Chair の挨拶に続き、前回理事会議事録について審議され、承認されました。また、2025 年決算予想報告ならびに役員（2027-2028）選出手続きに関して、理事会承認方式で進めることができました。続いて、各委員会並びに各 Affinity Group の 2025 年の活動・決算と、2026 年の活動計画・予算について説明・審議が行われ、承認されました。引き続き、東京支部 2025 年活動報告及び 2026 年活動計画・予算案について説明・審議が行われ承認されました。

その後、HTC2025 開催報告に引き続き、EA、SIGHT に関する、2025 年の活動・決算と、2026 年の活動計画・予算について説明・審議が行われ、承認されました。さらに HISTELCON2026 準備状況報告が行われました。



理事会議事録 <https://www.ieee-jp.org/section/tokyo/adm/agenda/giji25-4.pdf>

2025年 第7回東京支部講演会開催

東京支部 TPC (Technical Program Committee) 主催により、2025年11月28日（金）15:00～16:30、バーチャル会議システム「Zoom Webinar」を用いたオンライン形式で、2025年度第7回東京支部講演会を開催しました（共催：IEEE 東京支部 LMAG (Life Members Affinity Group)、協賛：電子情報通信学会）。当日は約120名の参加し、盛況のうちに終了しました。

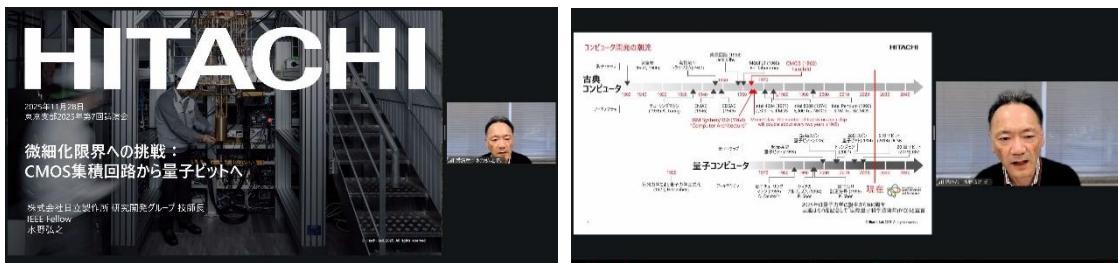
本講演会では、株式会社日立製作所 研究開発グループ 技師長であり、2022年にIEEE Fellowを受賞された水野 弘之氏を講師としてお迎えしました。

「微細化限界への挑戦：CMOS集積回路から量子ビットへ」と題したご講演では、「微細化限界への挑戦：CMOS集積回路から量子ビットへ」と題した講演では、シリコン半導体による古典的コンピュータの歴史的発展から量子コンピュータへの進化に至るまで、幅広い内容が語られました。半導体微細化の進展とともに顕在化したトランジスタのリーク電流問題に対する低減技術から、大規模集積化が期待されるシリコン基板上量子ドットを用いた量子ビットの研究開発に至るまで、取り組んできた研究開発を通じた幅広い話題が示されました。

講演後には活発な質疑応答が行われ、「CMOS回路の歴史と量子分野の最新トピックを同時に聞くことができて有意義だった」、「シリコンをベースとした半導体計算機と量子計算機についてわかりやすく対比してまとめられており、非常に参考になった」といった声が多数寄せられました。

今後も、ハイブリッド形式やオンライン形式を活用した講演会の開催を通じて、より多くの方々にご参加いただけるよう努めてまいります。最後に、本講演をご担当いただいた水野様、ならびにご参加・ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

（報告：Technical Program Committee Secretary 原 紳介）



2025年 第9回東京支部講演会開催

東京支部 TPC (Technical Program Committee) 主催により、2025年12月19日（金）15:00～16:30、現地開催およびバーチャル会議システム Zoom Webinar を併用したハイブリッド形式で、2025年度第9回東京支部講演会を開催しました（共催：IEEE 東京支部 LMAG (Life Members Affinity Group)、協賛：電子情報通信学会）。会場は機械振興会館で、当日は現地およびオンラインを合わせて約50名が参加し、盛況のうちに終了しました。

本講演会では、東京工科大学 工学部 機械工学科教授であり、2021年にIEEE Fellowを受賞された余 錦華先生を講師としてお迎えしました。

「プロセス制御の高性能を目指して—知能制御からアクティブ外乱抑制まで」と題した本講演では、冶金プロセスを含む産業プロセス制御を対象に、知能制御・最適化制御の基礎的な考え方から、講演者が提案した等価入力外乱手法に至るまでの研究について、理論的背景と実プロセスへの適用例を交えながら紹介いただき、プロセス制御技術の高性能化に向けた有益な知見が示されました。

講演後の質疑応答では活発な議論が交わされ、AIが注目される時代においても運動制御には数学モデルが不可欠であるという指摘が印象に残ったほか、より詳しい内容を聞きたいとして再講演を望む声も寄せられました。

今後も、ハイブリッド形式やオンライン形式を活用した講演会の開催を通じて、より多くの方々にご参加いただけるよう努めてまいります。最後に、本講演をご担当いただいた余先生、ならびにご参加・ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

（報告：Technical Program Committee Secretary 原 紳介）



IEEE東京支部事務局からのお知らせ

Tokyo Bulletin はメールにて発行させて頂いております。

メンバーシップ更新はお済みでしょうか？本部ホームページからオンラインで [更新手続き](#) ができます。

東京支部では会員の皆様のシニアメンバーへのアップグレードを推奨しております。本部ホームページ上で [Online 申請](#) ができます。詳細については [Senior Member 申請方法](#) をご参照ください。

住所等のご変更は、必ず IEEE 本部に届け出てください。[Web Account](#) にサインインし、Profile メニューからのご変更が可能です。

会員の皆様からのご意見、ご要望などのお問い合わせは tokyosec@ieee-jp.org までお願ひいたします。